

社会科学学習指導案

尾道市立長江中学校 藤本 弘興

1 分野名 地理的分野

2 学年 第2学年

3 単元名 E U

4 単元設定の理由

社会の変化に自ら対応する能力や態度を育成する観点から、学習内容を基礎的・基本的な内容に厳選し、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習など児童生徒の主体的な学習の必要性がさげられるようになって久しい。主体的な学びの原動力は学ぶ意欲であること、また興味・関心や学習課題は生徒一人ひとりによって異なることは言うまでもない。

そこで、一斉指導による共通学習で基礎的・基本的な事項を理解させた上で興味・関心を高め、自ら設定した学習課題を追究する個別学習を行い、発表することで表現力、自己評価・相互評価の力を養うといった単元構成の工夫が必要となる。

国際化が進展する現代の世界において、物的にも人的にも国境を越えた移動・往来が進んでおり、事象によっては国という枠組みの中ではとらえきれない場合も見られてきた。また、地理的事象には自然や言語、民族の分布などのように国の領域や国境とは必ずしも重ならないものも少なくない。ヨーロッパは民族・言語・気候・産業等の多様性を包含した地域であり、EUとしてひとつにまとまろうとしていることから、人類の将来を展望する上でも有意義であり、この地域の持つ多様性が地理学習の基礎的・基本的な事項を含んでいると同時に、生徒一人ひとりに適切な課題を設定させる可能性を有していると考え、本単元を設定した。

5 単元の目標

社会的事象への関心・意欲・態度	ヨーロッパの地理的事象に対する関心が高まっており、ヨーロッパの地域的特色を意欲的にとらえようとする。 基礎的・基本的事項を理解した上で、追究しようとする課題を設定できる。
社会的な思考・判断	ヨーロッパの多様な地理的事象を多面的・多角的に考えることができる。
資料活用の技能・表現	教師が提示する資料、および生徒一人ひとりが設定した課題に応じて、さまざまな情報手段を活用して収集した資料をつかって考察した結果を新聞にまとめ、適切に発表できる。
社会的事象についての知識・理解	ヨーロッパの地理的事象の基礎的・基本的事項を理解し、知識を身につける。 さまざまな資料を活用して問題を解決する視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解しその知識を身につける。

6 指導計画(全12時間)

授 業 評 価	生徒に追求させたい問い	教師の支援と資料	学 習 活 動	生徒から出されると予想される認識
	社会事象への関心・意欲・態度		社会的な思考・判断 資料活用の技能・表現	知 識 ・ 理 解
第 1 時 ヨ ー ロ ッ パ へ 行 こ う (位 置)	<p>ヨーロッパへ架空旅行をしてみよう。どんなみちのり(経路)でいけばよいのだろうか?</p> <p>・航空路がどこを通っているか確かめてみよう。</p> <p>日本を12月14日の0時に出発すると、ロンドンには、何日の何時に到着するか?</p> <p>この風景写真はどこの国だろうか? 次の図式を参考にして根拠を述べながら、画面に写し出された風景がどこの国のものかを予想してみよう。</p> <p>写真の風景 <input type="text"/> 国だ!</p> <p>そう考えたのは <input type="text"/> だから (自然の様子, 文化的特徴から考える)</p>	<p>世界地図(地囃) 旅行用パンフ 正距方位図法 地球儀</p> <p>世界地図(地囃) 地球儀</p> <p>風景写真 (用意する写真イギリス・フランス・イタリア・スペイン・オランダ・ギリシア・ドイツ・スイス・フィンランド・デンマーク) 白地図</p>	<p>地図に経路を記入してみる。</p> <p>自分の描いた地図比較する。 航空路の確認 航空路を正距方位図法の地図に記入する。 地球儀にテープを貼って航空路を確認する。</p> <p>フライト時間を考慮しながら計算する。</p> <p>班活動</p>	<p>(日欧の位置関係の既存の知識の確認)</p> <p>* 地球の姿 * 航空路は日欧の最短距離をもとに設定 * 正距方位図法の特長 * ヨーロッパの位置</p> <p>* 日本は東経135度 * ロンドンは経度0度 * 経度15度につき1時間の時差 * 時差の計算の方法</p>

	<p>・正解はどこだろうか？</p> <p>-----</p> <p>今日の学習でわかったことやもっと知りたいことを書いてみよう。</p>	<p>VTR (自然の姿・都市の風景など)</p>	<p>VTRを視聴する。 ワークシートにまとめる。</p> <p>-----</p> <p>自己評価カードに記入する。</p>	
<p>第2時</p> <p>ヨーロッパへ何を着て行こう(気候)</p>	<p>12月のロンドンを訪れるとしたらどんな服を持って行けばよいのだろうか？</p> <p>・確かめてみよう。</p> <p>なぜロンドンが高緯度のわりに温暖なのだろうか？</p> <p>・確かめてみよう。</p> <p>ところで、次の訪問地である12月のローマを訪れるときの服装はロンドンと同じでいいと思うか？予想した上で調べてみよう。(地中海性気候の特徴)</p> <p>地中海沿岸の代表的な農作物は何だろうか？</p> <p>-----</p> <p>今日の学習でわかったことやもっと知りたいことを書いてみよう。</p>	<p>(ヒント:ロンドンは北海道よりも高緯度)</p> <p>12月のロンドンの写真 12月の札幌の写真 雨温図</p> <p>教科書 資料集 地図帳</p> <p>地図帳・雨温図</p> <p>*バレンシアオレンジ、オリーブオイルを提示</p>	<p>予想する。</p> <p>ロンドンと札幌の同時期の写真を比較する。</p> <p>雨温図で確認する。</p> <p>予想する。</p> <p>資料をもとに確認する。</p> <p>予想する。 雨温図で12月の降水量を確認する。</p> <p>教科書・地図帳で確認する。 試食する。</p> <p>説明を聞く。</p> <p>-----</p> <p>自己評価カードに記入する。</p>	<p>*イギリスは日本よりも高緯度なのでかなりの防寒が必要だろう。</p> <p>*実際にはかなり冬も温暖である。(資料)</p> <p>*雨温図の読み方</p> <p>*偏西風と暖流の影響で、イギリスは日本よりも高緯度にあっても比較的温暖である。 *イギリスのような気候を西岸海洋性気候という。</p> <p>ヨーロッパに典型的にみられる気候であり、地中海性気候では、夏は乾燥し冬は温暖降水量が多い。</p> <p>夏の乾燥に強いオレンジやオリーブなどを栽培している。</p> <p>*日本のオレンジやぶどうは生食用だが、地中海沿岸のオレンジはジュースに、ぶどうはワインになる。</p>
<p>第3時</p> <p>ヨーロッパを食べよう(農業)</p>	<p>・これは何か？(実物を提示)</p> <p>フランクフルト、ウインナー、パイエルン、フランクフルトという名前はどこから来ているのだろうか？</p> <p>・本当にあるかどうか地図でさがそう。</p> <p>史上最長のソーセージはどれくらい長いと思うか？</p> <p>どのようにして家畜を飼っているのだろうか？ドイツの農村風景を見てみよう。特長は何か？</p> <p>家畜と穀物を一緒に育てるとどんなメリットがあるだろうか？</p> <p>ソーセージのほかに家畜から取れたものを保存した食料に何かがあるか？</p> <p>家畜を飼うために山岳地帯ではどんな工夫をしているのだろうか？なぜ、ペーター(登場人物)は、家畜をつれて山に上った</p>	<p>*ソーセージを提示</p> <p>地図帳</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート 農村の図</p> <p>ワークシート 農村の図</p> <p>*チーズを提示</p> <p>VTR(『アルプスの少女ハイジ』)</p>	<p>答える。</p> <p>答える。</p> <p>地図帳で確認する。</p> <p>予想する。</p> <p>特徴をさがす。</p> <p>班で予想する。</p> <p>班で予想する。</p> <p>VTRをみて班で考える。</p>	<p>*フランクフルト・ウインナー...</p> <p>*地名？</p> <p>*地図帳の使い方</p> <p>*500m。ヨーロッパの人々にとって欠かせない食品のひとつであり、家畜の一片もムダにしない工夫の一つである。 *肉食の文化である。</p> <p>*麦の栽培 *てんさい(根は、砂糖の原料に、しばり粕や葉は家畜のえさになる。) *混合農業</p> <p>*チーズ 酪農</p> <p>*アルプス山脈の位置 *移牧の概念</p>

	<p>り下りたりしているのだろうか。地図帳や資料集で調べてみよう。</p> <p>ヨーロッパの人々は高緯度の自然の中でどんな工夫をしているのかについてまとめてみよう。</p> <p>ヨーロッパの文化を食べよう！</p>	<p>地図帳 資料集</p>	<p>考える。</p> <p>ソーセージ・チーズを試食する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ヨーロッパの人々は高緯度のきびしい自然のなかで気候条件に適した農業の工夫をしている。</p> </div>
<p>第4・5時 ロンドン・パリ・ベルリンの旅（EU）</p>	<p>ヨーロッパで移動するにはどうすればよいのだろうか？</p> <p>・国から国へと移動するのに、人気が高い乗り物は何だろうか？</p> <p>・ところで、TGVやユーロスターは日本の線路を走れると思うか？</p> <p>・ヨーロッパの全域地図と日本の国土を重ねてみよう。</p> <p>・国境に来るたびに乗り換えるのは面倒だね。どうなっているのだろうか？</p> <p>・国境を簡単に通れるのだろうか？</p> <p>この他にヨーロッパの国々は、すでに何を統一し、次に何を統一しようとしているか？</p> <p>ヨーロッパの国々のまとまりを何というか？</p> <p>EUに加盟している国はどれくらいあるか？</p> <p>今回の学習でわかったことやもっと知りたいことを書いてみよう。</p>	<p>写真</p> <p>写真 (TGV・ユーロスター)</p> <p>VTR</p> <p>TP</p> <p>資料集・教科書</p> <p>教科書 資料集</p> <p>教科書 資料集</p> <p>教科書 資料集</p> <p>教科書 資料集 地図帳</p>	<p>写真を見る。</p> <p>予想する（理由も）説明を聞く。</p> <p>VTRを見て考える。</p> <p>考える。</p> <p>教科書・資料集で調べる。</p> <p>教科書・資料集で調べる。</p> <p>教科書・資料集で調べる。</p> <p>教科書・資料集で調べた地図帳で位置の確認をする。 ワークシート</p> <p>自己評価カードに記入する。</p>	<p>* ロンドン市内ならば、2階建てバス、ロンドンタクシー…。</p> <p>* TGVは世界最速の列車である。</p> <p>* 国によって規格が異なる。日本を走るためにはレールと信号の規格を統一しなくてはならない。</p> <p>* 小国が多い。</p> <p>* 乗り換えなくても国境を通過する国際列車である。</p> <p>* 列車だけでなく、道路を使っても簡単に通ことができ、国境を越えて通勤している人もいる。</p> <p>* EUの実際</p> <p>* EC EU</p> <p>* 西ヨーロッパの大部分の国が加盟している。</p>
<p>第6時 最後の授業（EUと工業）</p>	<p>・『最後の授業』を読んでみよう。</p> <p>・この物語の場所はどこだろうか？</p> <p>・フランスとドイツが戦ったのはいつ頃か、何度あるかの年表で調べよう。</p> <p>なぜフランスとドイツは戦ったのだろうか？</p> <p>1951年に発足したものは何か？</p> <p>ドイツの石炭の産地はどこか？</p> <p>ルール工業地帯では原料や製品をどうやって運んでいるのだろうか？</p>	<p>『最後の授業』</p> <p>地図帳</p> <p>年表</p> <p>ワークシート</p> <p>地図帳</p> <p>地図帳 資料集 ライン川の写真</p>	<p>資料を読む。</p> <p>場所の確認をする。</p> <p>回数を確認する。</p> <p>班で予想する。説明を聞く。</p> <p>調べる。</p> <p>調べる。</p> <p>班で予想する。</p>	<p>* アルザス * ロレーヌ</p> <p>* ドイツとフランスで繰り返し戦争がおきている。</p> <p>* 鉄鉱石をめぐる争い 鉄鉱石と石炭が工業を支えていた時代 資源の有効利用の面からのEUの必然性</p> <p>* フランス・ドイツの両大国が協力することによってこそヨーロッパの発展と平和が成り立つ。</p> <p>* ECSC（ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体）EEC EC EUへと発展した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ルール地方 ザール・ロレーヌ地方 の石炭 の鉄鉱石 ルール工業地帯（斑は付）</p> </div> <p>* ライン川、鉄道、道路、飛行機など</p> <p>* ライン川は国際河川であり、ルール工業</p>

	現在の工業にとって最も大切な資源である石油はどうしているのか？	地図帳 資料集	ヨーロッパの油田をさがす。	帯はライン川の水運によって成り立っている。 * 北海油田 北海油田の発見によって新しい工業地帯が形成された。
	今回の学習でわかったことやもっと知りたいことを書いてみよう。		自己評価カードに記入する。	
第7 ～ 10 時	生徒が自己評価カードに記入した「もっと知りたいこと」の中から課題を設定し、書籍・インターネット等で課題を追究し、新聞を作成してみよう。		生徒が自己評価カードに記入した「もっと知りたいこと」の中から課題を設定し、書籍・インターネット等で課題を追究し、新聞を作成する。	
第11 ・ 12 時	プレゼンテーションをしてみよう。自分のプレゼンテーションの出来はどうか、クラスメイトの発表の出来はどうかについて話しあってみよう。		プレゼンテーションを行い、自己評価・相互評価を行う。	

7 評価

一斉指導による共通学習における評価（第1時～第6時）

ヨーロッパの地理的事象の基礎的・基本的事項を理解し、知識を身につけているかを把握する。

ヨーロッパの地理的事象に対する関心が高まっているかを把握する。

基礎的・基本的事項を理解した上で、ヨーロッパの地域的特色を意欲的にとらえ、自ら課題を設定できるかを把握する。

自ら設定した学習課題を追究する個別学習における評価（第7時～第10時）

設定した課題に応じて、さまざまな情報手段を活用して資料を収集できるかを把握する。

収集した資料をつかって多面的・多角的に考察し、問題を解決できるかを把握する。

考察した結果を新聞にまとめ表現できるか、地理的なまとめ方を身につけているかを把握する。

プレゼンテーションにおける評価（第11時～第12時）

考察し新聞にまとめた結果を、適切に発表できるか、発表の方法を理解し、その知識を身につけるかを把握する。

発表を主体的な態度で聞いているかを把握する。